

2010年度実績と中期経営計画の概要

LEAD THE VALUE

株式会社 三井住友フィナンシャルグループ
2011年5月13日

2010年度業績の概要及び戦略施策の進捗

2010年度のSMFG連結当期純利益は、SMBCの業績が好調に推移したことや、グループ会社の業績も堅調であったこと等から、前年度比 +2,043億円の増益。

海外業務において拠点網や対応組織の拡充等を進めるとともに、SMBC日興証券*1においてSMBCとの連携体制やホールセール証券業務を強化。また、「グローバルプレーヤーとしてのビジネス展開」に向け、11月にはNYSEに上場。

強靱な資本基盤の確保

順調な業績

| | | |
|---------------|----------------|---------|
| 業務純益*2 | | SMBC単体 |
| 大幅な増益 | 前年度比 +631億円 | 8,326億円 |
| 経費率 | | SMBC単体 |
| 低下 | 前年度比 △1.5% | 45.6% |
| クレジットコスト | | SMBC単体 |
| 大幅な削減 | 前年度比 △1,604億円 | ▲943億円 |
| 当期純利益 | | SMFG連結 |
| 大幅な増益 | 前年度比 +2,043億円 | 4,759億円 |
| Tier I比率(速報値) | | SMFG連結 |
| 上昇 | 10/3月末比 +1.32% | 12.47% |

NYSE上場の実現(10/11月)

着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築(10年度)

アジアを軸とした海外業務

中国を中心とした拠点網・対応組織の拡充

- ✓ 内外一体のサポート体制強化
- ✓ 4拠点開設、3拠点認可取得
- ✓ アジアの投資銀行機能集約

地場大手行との資本業務提携の推進

- ✓ コタック・マヒンドラ銀行(インド)
- ✓ バンコ・デ・ボゴタ(コロンビア)
- ✓ RHB銀行(マレーシア)

ホールセール/リテール証券業務(SMBC日興証券)

SMBCとの連携強化

- ✓ プライベートバンキング: SMBC・バークレイズとの業務協働開始
- ✓ 銀行代理店業開始
- ✓ SMBCフレンド証券で行っていたSMBCとの個人向け銀証協働事業を統合

エクイティ業務強化

- ✓ 新トレーディング・システム稼動
- ✓ 株式調査部新設

海外展開の推進

- ✓ ロンドン、NY、香港、上海

国債のプライマリーディーラー資格取得

セディナ連結子会社化(10/5月)、完全子会社化(11/5月)

*1 日興コーディアル証券より商号変更(11/4月)、*2 一般貸倒引当金繰入前

(参考) 2010年度業績の概要

P/L

| | | 10年度 | 前年度比 |
|------------|----------|--------|--------|
| (億円) | | | |
| SMBC 単体 | 業務粗利益 | 15,318 | +765 |
| | 経費 | ▲6,992 | ▲134 |
| | <経费率> | 45.6% | △1.5% |
| | 業務純益*1 | 8,326 | +631 |
| | 与信関係費用*2 | ▲943 | △1,604 |
| | 株式等損益 | ▲873 | ▲912 |
| | 経常利益 | 5,957 | +1,330 |
| | 当期純利益 | 4,212 | +1,032 |
| SMFG 連結 | 経常利益 | 8,254 | +2,667 |
| | 当期純利益 | 4,759 | +2,043 |

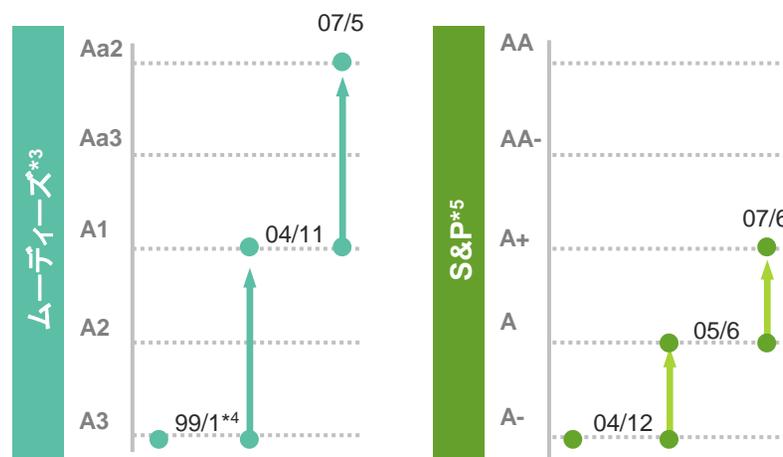
参考

自己資本関連(速報値)

| | | 11/3月末 | 10/3月末比 |
|------------|----------|--------|---------|
| SMFG 連結 | 自己資本比率 | 16.63% | +1.61% |
| | Tier I比率 | 12.47% | +1.32% |

参考

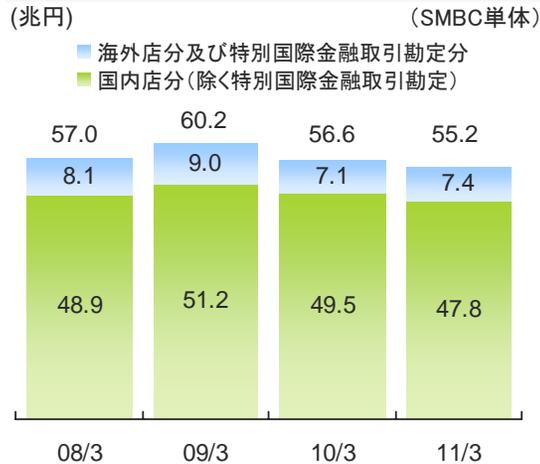
格付(三井住友銀行)



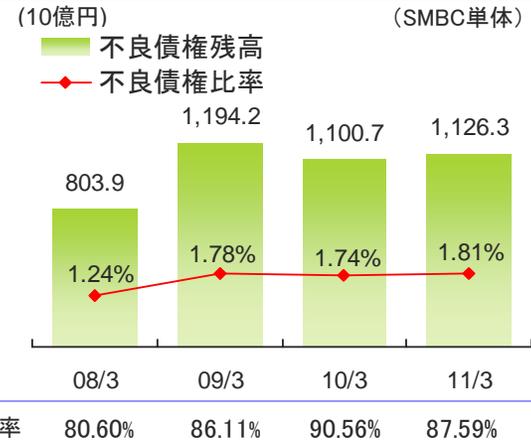
*1 一般貸倒引当金繰入前 *2 特別損益分を含む *3 発行体格付
*4 長期自国通貨建発行体格付(住友銀行) *5 長期自国通貨建発行体格付

(参考) 2010年度 B/S関連

貸出金残高

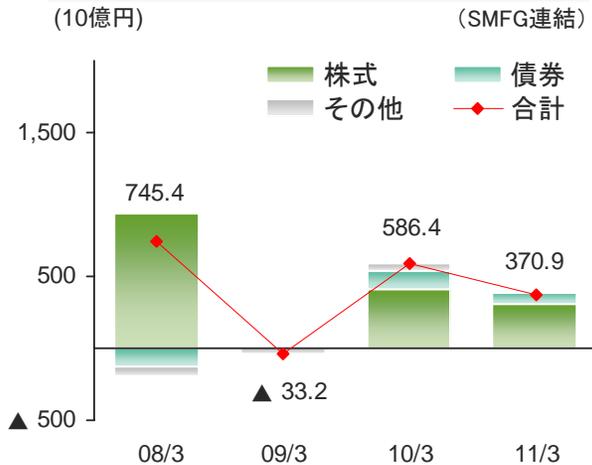


不良債権残高及び同比率*

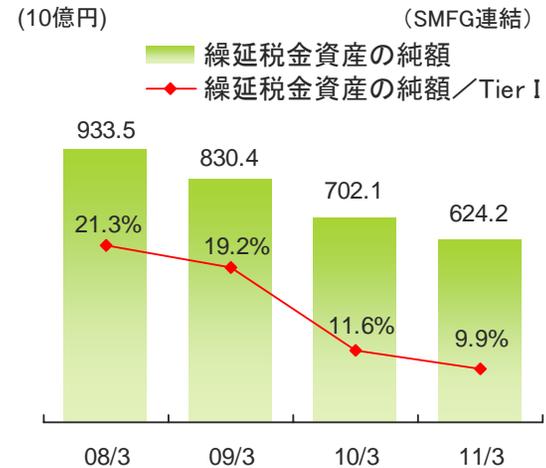


* 不良債権比率=金融再生法開示債権残高(除く正常債権)/総与信

その他有価証券評価損益



繰延税金資産純額



中期経営計画の概要

経営方針

「先進性」「スピード」「提案・解決力」の極大化により
「最高の信頼を得られ世界に通じる金融グループ」を目指す。

コーポレートスローガン
LEAD THE VALUE

今後3年間で目指すべき方向性

金融面でのプロアクティブな支援を通じ日本の復興に貢献

中期経営計画（2011～2013年度）

経営目標

- 戦略事業領域におけるトップクオリティの実現
- 新たな規制・競争環境に対応した財務体質の実現

財務目標

- 「健全性」「収益性」「成長性」のバランスの取れた安定的な向上を図る。
- グローバル金融グループに相応しいコアTier I 比率
 - アセットクオリティを高め、リスク・リターンの更なる向上を実現
 - グローバル金融グループの中でトップレベルの効率性を追求
 - アジアを中心とする海外の成長を捕捉し、海外収益力を増強

2013年度
目標値

| | |
|-------------|--------|
| コアTier I 比率 | 8%程度 |
| 連結当期純利益RORA | 0.8%程度 |
| 連結経費率 | 50%台前半 |
| 単体経費率 | 40%台後半 |
| 海外収益比率 | 30%程度 |

経営目標、財務目標実現のための方策

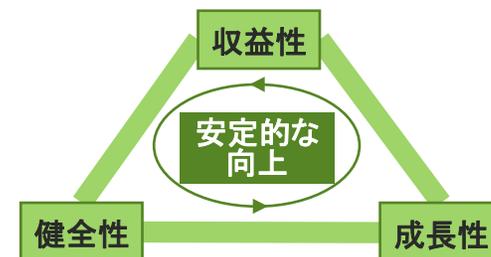
戦略施策

戦略事業領域

- 個人向け金融コンサルティングビジネス
- 法人向けトータルソリューションビジネス
- アジアを含む新興国における商業銀行業務
- 証券・投資銀行業務
- 非アセットビジネス（決済・アセットマネジメント等）

企業基盤

- グループ経営強化
- グローバル化推進
- 業務効率化



本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及びグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、保有株式に係るリスクなどです。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。